

(2) 学力向上の取組について

これまで南魚沼市では、学力向上を目指し「学びの基礎力」の育成に取り組んできました。「聞く」「話す」「書く」の目標を可視化や数値化することで分かりやすく示し、達成した児童生徒を認めほめることで、学習意欲や集中力を高めるようにしてきました。

一方、全国学力学習状況調査などでは、近年長文の問題が多く出題される傾向があり、長い文章を素早く読んで理解して考え、回答する必要があります。また、表やグラフなどの資料を読み取り、考え判断して文章で記述する問題など、正しく読み解く力が求められています。残念ながら南魚沼市の児童生徒には、そもそも問題に回答しない、無答率が高い状況もみられました。

このような状況を受け、今まで取り組んできた「学びの基礎力」を土台として、「読む力」に焦点を当て、『「正しく読む力」と「深く読む力」を高めることで、問題や課題への理解が深まり、学習意欲や学力の向上につながるのではないか』という仮説の下、令和5年度より「読む力」の育成に向けた取組を推進しています。六日町中学校区の小中学校3校を実証研究校とし、リーディングスキルテストの結果に基づき実態把握を行い、授業改善へ活用しています。

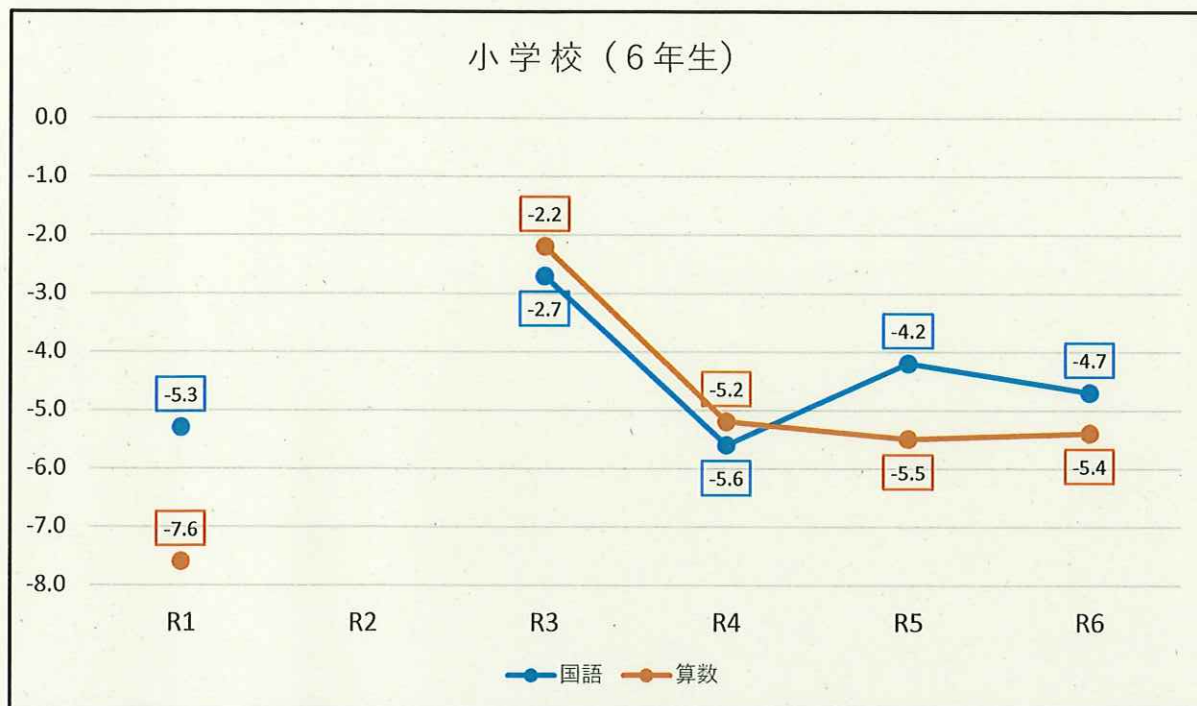
2年目となる令和6年度は、市内全ての学校で「読む力の育成」を重視した授業改善に取り組んでいます。5月には、第1回学力向上推進研修を開催し、1年目の取組や、それにより生じた疑問・指摘などを受け、取組の方向性を確認しました。また、8月には市内教員全体研修として、教育講演を行いました。リーディングスキルの視点からの授業づくりについてご講演いただき、日々の授業においてどのように働き掛けをする必要があるか、ご指導いただきました。

「正しく読む力」と「深く読む力」は、子どもたちが生きていく上で生涯にわたって必要な力であると同時に、学力向上に不可欠な力であると考えています。南魚沼の子どもたちの未来のため、先生方と共に取り組んでまいります。

○令和6年度の取組

- ・市内一丸となって、継続して読む力育成の取組を推進する（粘り強く「読む力」の育成に取り組む1年とする）
- ・「聞く」「話す」「書く」と効果的に組み合わせて「読む力」を育む（「学びの基礎力」を基にして）
- ・家庭学習の充実を図る（授業と家庭でよい「学びのループ」をつくる）
- ・ICTを一層活用する（デジタル、アナログ双方の教育効果や作業効率等を考え、子供たちも含め適切に取捨選択しながらICTを活用する）

全国学力・学習状況調査の推移（全国平均との差）



※ 令和2年度は新型コロナウイルス感染症のため実施していない

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果

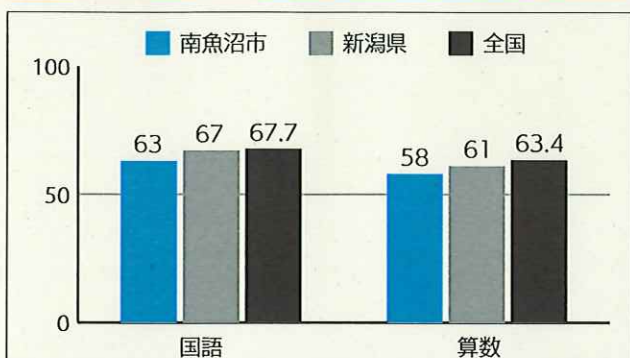
【問合せ】 学校教育課 ☎773・6700 市学習指導センター ☎773・6702

4月18日(休)に全国の小学6年生と中学3年生を対象に、小学生は国語と算数の2教科、中学生は国語と数学の2教科で、全国学力・学習状況調査が実施されました。平均正答率と学習状況などの傾向について全国・県と比較した結果をお知らせします。

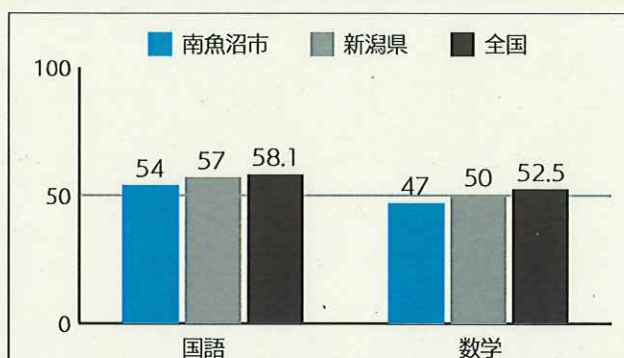
1 全国・県の平均正答率との比較

○ 全国・県よりも低いながら、昨年度と比較して学力向上の兆しが見えます

小学6年生の平均正答率



中学3年生の平均正答率

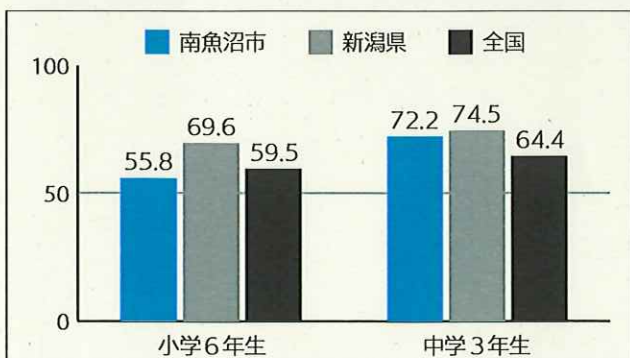


昨年度と比較して小学6年国語以外の数値がやや上がったものの、全ての教科で、全国・県の平均正答率を下回りました。両教科で共通している課題は、文章やグラフを正しくとらえ、それを基に自分の考えなどを正しく表現することです。課題の解決に向け、問題文などのさまざまな情報を正しくとらえるために「読む力」の育成が重要であると考え、各学校では学力向上に向け「読む力」を大切にした授業へと改善を進めています。

2 生活習慣や学習環境などに関する調査結果から (ICTの活用)

○ 南魚沼市の中学生は、学校のさまざまな教育活動でICTを活用しています

これまでに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか

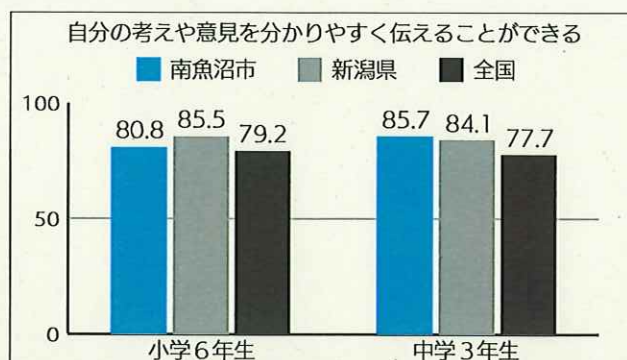
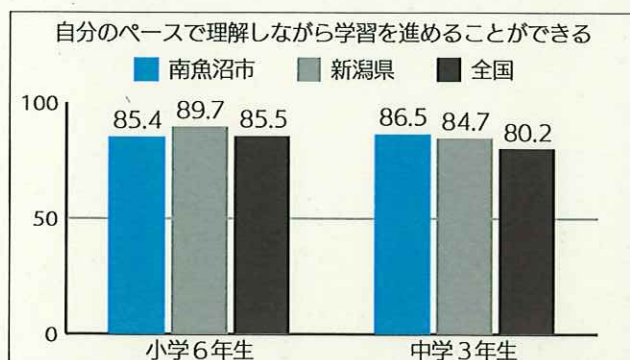


南魚沼市では、電子黒板の導入など、ICT環境の整備を進めるとともに、先生たちへの研修を重ねるなど、各校でのICT活用の推進を支援してきました。

中学校は全国を上回る高い活用率ですが、小学校では発達段階に応じて一層の活用が必要です。

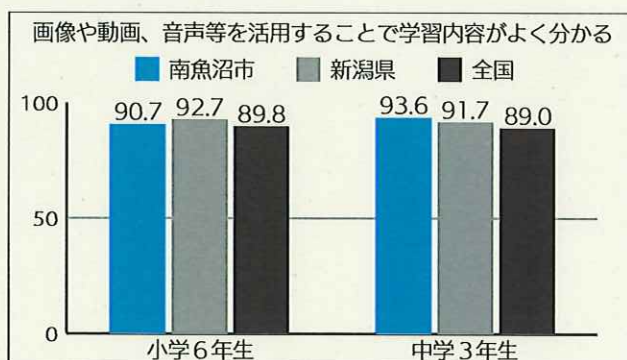
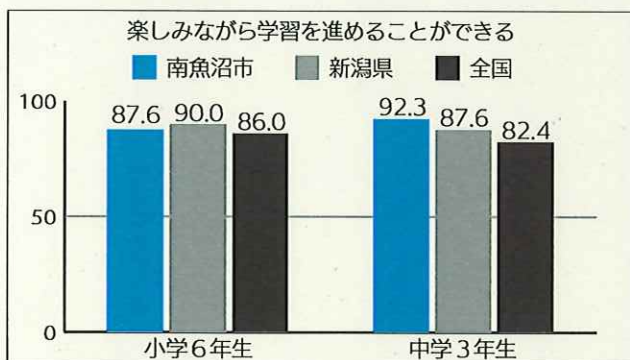
学習でPC・タブレットなどのICTを活用することについて肯定的評価の割合

○ 南魚沼市の中学生は、ICTを活用して上手に学習を進めています



小学6年生は、どの質問も全国と同程度の回答割合でした。中学3年生は、「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」で約6ポイント、「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」で8ポイント、全国を上回りました。

○ 子どもたちの学習意欲と理解度の高まりに、更なるICTの活用が期待されます



中学3年生で、「楽しみながら学習を進めることができる」については、全国を約10ポイント、「画像や動画、音声などを活用することで学習内容がよく分かる」で約5ポイント全国を上回りました。特に中学3年生は、ICT機器を自らの学びを支援してくれる有効な道具であると考え、学習意欲と理解度が高まると肯定的にとらえています。

また、学習用端末導入当初から取り組んでいる「A I 学習ドリル」は、小・中学校ともに、夏季休業などの課題や家庭学習を中心に活用が年々進んでいて、学力向上に寄与すると考えています。

○ 県が求める子どもたちのICT活用能力

新潟県では令和6年3月に「新潟県学校教育情報化推進行動計画」と児童生徒の活用レベルについて具体的に示した「児童生徒の情報活用能力体系表」を公表しました。新潟県ウェブサイト（「新潟県教育委員会」で検索）で公開しています。

児童生徒がより高いレベルでICTを活用できるよう、今後も環境の整備と先生たちへの研修の充実を図り、学校での一層のICT活用を進めます。

ICTを活用した学習の様子などは、市学習指導センターウェブサイトをご覧ください。



市学習指導センター（市民会館 2階）